

広島発祥の海プラごみに関する教育・啓蒙活動を実施 海プラごみ問題の解決には国際レベルの産官学連携の促進が重要です。

広島アセアン協会 副会長
株式会社メンテックワールド 代表取締役

小松 節子



1. 広島県の海プラごみに対する取り組み

平成28年1月に開催されたダボス会議で2050年迄に海洋中に存在するプラスチックの量が魚の量を超過する(重量ベース)との衝撃的な試算が報告されました。このような背景もあり、令和元年6月に開催されたG20大阪サミットでは、日本政府主導の「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」が採択され、2050年迄に海プラごみによる汚染をゼロにするとの目標が掲げられました。

そして、今年6月23日には、湯崎英彦広島県知事により署名された「海洋プラスチックごみゼロ宣言」が公表され、上記の「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」にも触れつつ、瀬戸内海に新たに流出する海洋プラスチックごみの量が2050年迄にゼロにするこ

とが表明されました。この宣言は、表題として、「くみんで守ろう、ミライへ。美しく恵み豊かな瀬戸内海を」2050輝くGREEN SEA 瀬戸内ひろしま宣言」と称されており、広島県が先

頭に立って、企業、自治体および県民との連携に基づく形で、瀬戸内海の環境保全を推進するとともに、県内外に発信していくことをコミットしています。

その後、広島県環境県民局環境保全課において、「GREEN SEA 瀬戸内ひろしまプラットフォーム」に伴うワーキンググループが設置され、関係者の取組や課題が共有され、有識者等の専門的な見地からの意見を踏まえて、今後の具体的な対応策等が議論される予定です。広

2. 日本とアセアン間の海プラごみに関する課題

近年、日本とアセアン(東南アジア諸国連合)は、政府レベルで様々な観点から海プラごみの分野で協力してきましたが、昨年11月に公表された「インド太平洋に関するASEANアウトルック(AOIP) 協力についての第23回目ASEAN首脳会議 共同声明」の中に、「海プラ

ごみ」が、明示的に、日本とアセアンが更に協力すべき優先分野として盛り込まれました。

アセアン加盟国の海プラごみ問題は、世界諸外国との比較でも顕著化しています。2010年の1年間に海に流出したプラスチックごみが多い国を特定する研究では、第1位の中国(132)353万トン)に続いて、第2位がインドネシア(48)129万トン)、第3位がフィリピン(28)75万トン)、第4位がベトナム(28)73万トン)、第6位がタイ(15)41万トン)、第8位にマレーシア(14)37万トン)です。

また、中国と同様に、東南アジア諸国でも廃プラスチック輸入規制強化の動きが目

立ってきており、マレーシアでは実質的に輸入禁止、タイでは一部輸入禁止しつつ、2021年には全面輸入禁止の方針を維持し、ベトナムでは輸入基準を厳格化し、インドネシアでは輸入禁止・規制を検討されています。この動向はプラごみの行き場を失わせ、国内でもプラスチックの再生化や新素材の探求の必要性等を急務として、政府、研究機関及び企業レベルで様々な研究開発やビジネスモデルの導入に着眼した、プロジェクトが着手されています。

3. 海プラごみ教育に関する「広島ASEANエコ・スクール」パイロットプロジェクトの共催

今年度、広島アセアン協会

は、国際機関日本アセアンセンター(以下日本アセアンセンター)が実施するパイロットプロジェクトを共催しつつ、広島県がプラットフォームの枠組みの中で取り上げている、海プラごみに対する課題に貢献したいと考えています。

海プラごみ問題の解決には、海プラごみに関する教育や啓蒙活動が不可欠です。とりわけ、次世代の意識向上や行動変化が伴わない限り、2050年迄に海プラごみをゼロにする目標を達成することは不可能だと思えます。この理念に基づき、広島アセアン協会は、日本アセアンセンター、広島県教育委員会及びアセアン事務局と連携しつつ、広島発祥の海プラごみ教

育を、広島の小学校及び高等学校を対象に提供します。授業内容を作成し、講師を担当する人材には、日本アセアンセンターが昨年実施したプロジェクトに参画した、日本の大学で海プラごみに特化して研究を行っている日本人とアセアン9加盟国の11名を起用する予定です。

「広島ASEANエコ・スクール」と称されている理由には、広島とアセアン10加盟国それぞれで海プラごみ問題に関する授業を受けた生徒達が、オンライン・シンポジウムを通じて意見交換を行い、自らの問題解決に関する提言を行うとのイベントを冬季に企画しています。広島とアセアンの生徒達にとってこのような国際交流を通じて、海プラ

ラごみに対する意識が向上し、有意義で思い出深い経験となり、又、生徒達の行動においてプラスチックに関する3R行為「Reduce（削減）、Reuse（再利用）Recycle（リサイクル）」が徹底される成果が生じることを期待しています。

4. 国際レベルの産官学連携の促進について

海がどこまでも繋がっているのと同様に、海プらごみ問題の解決には世界規模の視点を軸に、いかに分野横断的な連携を包括的に形成していくかが重要となります。広島アセアン協会では、組織の基本概念として、産官学連携の促進の役割を担ってきましたが、その連携に基づき、海プ

らごみ問題に関する技術や事業に着眼し、アセアン加盟国とのビジネスマッチング会合等の開催についても日本アセアンセンターと一緒に検討しています。2050年に瀬戸内海がGREEN SEAとして輝くことを志し、東南アジア諸国をはじめ、海で繋がっている隣国と、海プらごみ問題対策に関する共通の目的を共有し、連携を益々強化することに努めたいと思います。



概要

広島アセアン協会

会 長 児玉幸治
 (元通商産業事務次官)
 事務所 東広島市
 設立年月日 2013年4月9日
 会員数 170
 設立の目的

広島とASEANとの相互の理解を深め、経済・観光・教育及び文化などの交流を推進し、もって友好親善に寄与することを目的とする。

主な事業内容

- ・ 理事会・定時総会・懇親会開催
- ・ 国際機関日本アセアンセンターとの連携事業
- ・ 駐日アセアン大使等の広島への招聘
- ・ 二国間交流団体等との意見交換会開催
- ・ アセアンセミナー開催
- ・ 留学生との交流、支援活動事業
- ・ アセアン視察団派遣事業
- ・ 日本とアセアンの交流を志向する組織や団体とのネットワーク強化
- ・ アセアンを語る夕べ開催
- ・ 広島県議会アセアン研究会との意見交換会開催
- ・ マツダ車の拡販促進

ホームページアドレス

<http://hiroshima-asean.org/>



“街のフレンドリーバンク”

■ 広島信用金庫

ひろしんホームページアドレス <http://www.hiroshin.co.jp/>